

平成29年度 学校経営の基本方針

1 教育環境

鹿北の教育環境は、ここ数年間で大きく変化してきた。4年前、鹿北の3つの小学校が統合し、中学校の隣に鹿北小学校として開校した。そして、小・中学校はランチルームでつながり、併設型の一貫教育が可能となった。また、本年4月、3つの保育園が統合しまほろば保育園として、小・中学校の近くに開園した。そのため、鹿北市民センターを中心に、教育機関が集まり、保・小・中15年間の連続した教育を行う環境が整った。

一方、子どもの数は、年々減少し、本校も平成22年度には160人の生徒が在籍していたが今年度は71名と大幅に減少してきている。生徒数減少により大きな影響を受けたものの一つに部活動がある。現状のままの部活動を維持していくことが困難となってきた。そこで、一昨年からの部活動の再編に取り組んでいる。再編の基本方針は、「自分たちは大きい学校に勝てない」という空気を一掃するために、小さい学校であっても小学校及び地域との連携を強化することで、本気で勝負できる部活動をつくることとした。また、小学校の運動部活動の社会体育への移行も視野に入れて再編を行った。今年度は、再編の一定の区切りをつける年度となる。

子どもの数が減少している反面、個別支援が必要な生徒が増加傾向にあることも鹿北の教育のあり方に大きな影響を与えている。学力面での支援とともに、コミュニケーション力や社会性など人間関係での支援が必要な生徒が増えてきている。まさに、山鹿市が取り組んできたインクルーシブ教育システムのさらなる構築が求められている。

2 教育課題

自分の思いを他者に伝えたり、他者の思いを推し量る力をつける必要がある。友だちのことを知っているようで知らない。思いを交流させる機会を意図的に増やすこと、学級や部活動集団でのなかまづくりを進めていく必要がある。

集団でいるときには、挨拶や返事、受け答えができる生徒が多いが、一人になるとできない生徒が出てくる。社会的自立のためにも社会性を身につけ、1対1でも勝負できる人材を育てていく。

自尊感情や自己肯定感が低い生徒が多い。また、何かにチャレンジする強さや勇気に欠ける面がある。最後までチャレンジさせ自信を持たせたい。

家庭学習習慣が未定着な生徒が多い。自分の学習スタイルが確立されておらず効果的な家庭学習ができていない生徒がいる。達成感のある学習スタイルを身につけさせたい。

3 教育実践・・・縦（保小中）と横（地域）の連携による教育の充実

連携を通して、中学校という少人数の人間関係から抜け出し、年齢、男女を問わず様々な生き方や考え方をもちた人たちとの交流による「多様な学び」を創造していく。社会との接点での学びを充実させることで、社会性の育成を図っていく。その中核となるのが、「小中一貫教育」及び「地域学校協働活動」の充実である。

鹿北小・中学校は、昨年度から2年間、国の指定を受け、校種間連携の研究実践に取り組んできた。その2年目となる本年は、連携の成果とともに、一貫教育の具体的な形をつくりあげていく年となる。

また、地域連携については、昨年度より、小中合同学校運営協議会を組織し、地域の方々による学校教育への参画を推進してきた。さらに、生徒会による地域行事への主体的参加、部活動生を中心とした地域交流、貢献活動に力を入れてきた。今後も、これらの活動の一層の推進を図り、「地域とともにある学校」づくりを進めていく。

4 重点実践項目

(1) 保小中連携及び一貫教育推進

- ・保小中の子どもたちの交流（縦の連携強化）による学びの充実と社会性の育成、自尊感情の涵養
- ・授業参観交流、教職員交流の拡大による小中学校文化の理解促進
- ・小中学校日課表統一による乗り入れ指導の拡大（外国語・社会・保健体育・音楽）
- ・保小中連携カリキュラム作成と啓発
- ・学校の教育目標及び重点実践項目共有化による一貫指導
- ・「6・3制」から「4・3・2制」へと移行を視野に入れたカリキュラム編成の原案作成

(2) 地域とともにある学校づくり

- ・小中合同運営協議会を中心とした「地域学校協働活動」推進 ※地域コーディネーター選任
- ・地域人材の学校教育活動への参画、小中学生による地域交流（貢献）活動による社会性育成
- ・地域行事（かほくまつり、ナイトハイク、駅伝大会等）への主体的参加と伝統芸能（茶山唄、神楽、太鼓）、伝統産業（製茶、林業）等での体験学習を通して、地域社会の一員として自覚と責任の高揚

(3) 学力向上

- ・ユニバーサルデザインの授業力向上と合理的配慮の提供及び鹿北版授業スタイルと学習規律の共有化
- ・誰もが達成感や成功体験を積むことができる授業づくりを通しての学習参加意識と学習意欲の向上
- ・家庭学習マネジメント力の育成と家庭学習習慣の定着
- ・外国語活動と英語教育の効果的な接続のため、小中学校の教職員が連携してカリキュラムづくり

(4) 自治力育成となかまづくり

- ・固定した人間関係からの脱却に向けての人権が尊重されるなかまづくりと質の高い集団づくり
- ・生徒会活動の活性化、保小中の縦割り班の編成・活用による徹底したリーダー育成と自治力育成
- ・児童会及び生徒会活動と保小中交流活動、地域交流活動の連動による自尊感情の涵養

(5) 体力向上

- ・小中合同体力向上プログラム作成による体力づくり、健康づくり推進
- ・地域指導者との目標共有・連携強化による部活動推進と心身の錬磨
- ・中学校の放課後部活動と小学校社会体育との連携を強化した体力向上推進

(6) 支援教育の充実

- ・鹿北版UDチェックリストの作成・活用による学びのUD化推進
- ・鹿北版ストラテジーシートの活用による支援の充実
- ・すまいる連絡会への参加を通しての保小中共通課題及び対応の共有
- ・通常学級在籍生徒への個別支援の充実と、ソーシャルスキル向上のためのスペース確保
- ・インクルーシブ教育システムや特別支援教育について徹底して啓発活動

学校教育目標

個性が輝き、社会的に自立した人材の育成

県・市教育方針

〈義務教育課取組の方向〉
・家庭教育支援
・地域の教育力向上
・体験活動・読書活動の推進
・生涯学習振興の基盤強化
〈山鹿市教育指導の重点〉
・「命」を輝かせる教育
・「志」を育てる教育
・「生き抜く力」を育む教育
本年度の重点
日本一の学園都市「やまが」を目指したさらなる校務改革、授業改革、中学校区の学園化の推進

目指す学校像

学校は、子どもたちをいかに輝く存在にできるかを考え、「教育実践を創造する場」である
学校は、感動を共有する場であり、「子どもたちの夢の実現のための学びの場」である

人材の育成(めざす姿)

- ◇ 地域のために積極的に行動できる
- ◇ 意欲的に学ぶ姿勢を身につけている
- ◇ 自ら課題を見つけ、話し合い、解決に向けて自主的に行動できる
- ◇ 自分の体力や健康に関心を持ち、積極的に運動に親しむことができる
- ◇ かしこく ほがらかに くふうできる

重点実践事項

〈小中連携から小中一貫へ〉 9年間の連続した「学び」と「交流」の創造
〈地域連携・地域貢献〉 社会の接点での「学び」と「体験」の充実
〈ユニバーサルデザインの授業力向上〉 達成感のある「学び」の共有
〈自治力育成となかまづくり〉 人の中での「学び」と「感動」の創造
〈スポーツ交流〉 地域交流・異年齢交流での「学び」と「鍛え」の充実
〈自立した学習者の育成〉 「学び」への意欲向上・自尊感情の涵養

研究目標

児童・生徒の発達段階を踏まえ、9年間の連続した「学び」の確立と、インクルーシブ教育システムを融合させた学習指導の工夫・改善

目指す教師像

子どもたちの頑張りが見える、喜びや悩みを共有し、責任転嫁しない、あきらめない教職員
一人一人が魅力ある生き方ができる教職員
指導の基本は「納得」、納得の連続が「信頼」。徹底して納得できる指導に努める教職員

せせらぎの人 清流の人

山間の町、鹿北を流れる清流の一滴が、やがては大河となり、ついには大海原へと至る。清流の一滴である鹿北の子どもたちには、たくさんの可能性があり、その可能性を拓くために、今は真剣に学び力をつけていく。

保小中連携・地域連携による人材育成

課題及び方向性の明確化

- 固定した人間関係からの脱却。視野を広げ、たくさんの人の考え方、生き方との出会い
- 学級や部活動集団及び学校を離れ、一人の時でも勝負できる(身につけた力を発揮できる)強さと行動力
- 小さな成功体験を重ねることでの自尊感情の涵養

実践(校種間連携研究推進)

- 保小中連携・地域連携推進
- 学力向上・外国語活動推進
- 自治力育成・なかまづくり推進
- 体力向上推進
- 特別支援教育推進

鹿北の全ての子どもが育つための具体的教育実践
計画表は別紙に掲載

対策・改善

- 各種アンケート・評価分析→運営委員会・推進委員会
- 課題に対する具体的取組の提案・共通理解・実践
- 支持的風土、なかまづくりの徹底
- 研究授業・授業研究会での協議事項の実践化
- インクルーシブの視点での対策・改善

点検・評価

- 目指す子ども像アンケート
- 学校評価(保護者・こども・教職員)
- 心のアンケート
- 鹿北版UDチェックリスト
- 研究授業・授業研究会
- テスト等の結果集計

評価・集計を行い、対策・改善につなげる

小・中学校教育目標

目指す姿

複数年

単年度

29年度実践項目

28年度中に実施

○**保護者・地域への啓発**

- ・小中一貫教育
- ・インクルーシブ教育
- ・小6一部教科担任制
- ・学校地域合同行事

○**小中合同行事の検討**

- ・運動会・体育大会
- ・合唱 等

○**地域行事運営スタッフ**

- ・かほくまつり
- ・ナイトハイク
- ・バレー大会
- ・駅伝大会 等

○**地域教育力の活用**

- ・体験学習
- ・ボランティア活動
- ・ミニ講話 等

○**家庭教育力との連携**

- ・SNS共通ルール
- ・あいさつ
- ・家庭学習習慣 等

○**共同分析・作成・検討**

- ・学力状況→対策
- ・人権学習教材
- ・道徳地域教材 等

○**伝統芸能の伝承**

- ・茶山唄・神楽・太鼓などの継承
- ・小中合同での活動
(総合的学習の時間)

【保小中連携】

- 授業参観交流
- 教職員交流推進
- 学校行事共同開催に向けて提案

- ・日課表の統一
- ・乗入れ指導計画作成
- ・連携カリキュラム作成
- ・教育目標・重点実践項目の共有
- ・保小中連携行事→教育カレンダーに

【地域連携】

- 地域行事への積極的参加
- 地域学校協働活動推進
- 伝統文化学習

- ・次年度の地域行事確認
- ・次年度構想説明・承認→運営協
- ・地域コーディネーター依頼

【自治力育成・なかまづくり】

- 保小中縦割り班の活用
- 小中合同リーダー育成
- 人権意識の醸成
- 地域活動参加による社会性育成

- ・リーダー研修計画
- ・縦割り班の活動計画
- ・学級づくりの課題洗い出し

【学力向上・外国語活動】

- UDの授業力向上
- 鹿北スタイルの実践
- 授業規律の統一
- 家庭学習マネジメント
- 英会話力

- ・UDの提案授業計画
- ・小中共通の学習規律
- ・小中教員の授業参観
- ・外国語活動と英語との連携
- ・提案授業計画案作成

【体力向上】

- 体力づくり
- 健康づくり
- 部活動交流
- 小中合同体育大会環境整備

- ・地域指導者との目標共有
- ・合同授業、T2授業等計画
- ・体力向上プログラム作成手順
- ・給食マナー確認(当番も)
- ・部活動顧問依頼

【特別支援教育】

- 学びのUD化推進
- 保小中の情報共有
- 啓発活動推進
- 個別の支援計画等の活用
- 支援学級の小中交流推進

- ・UDのチェックリスト作成
- ・次年度児童生徒状況確認
- ・ストラテジーシート改良

実態調査項目の検討・決定

小中共通重点実践事項の検討・決定

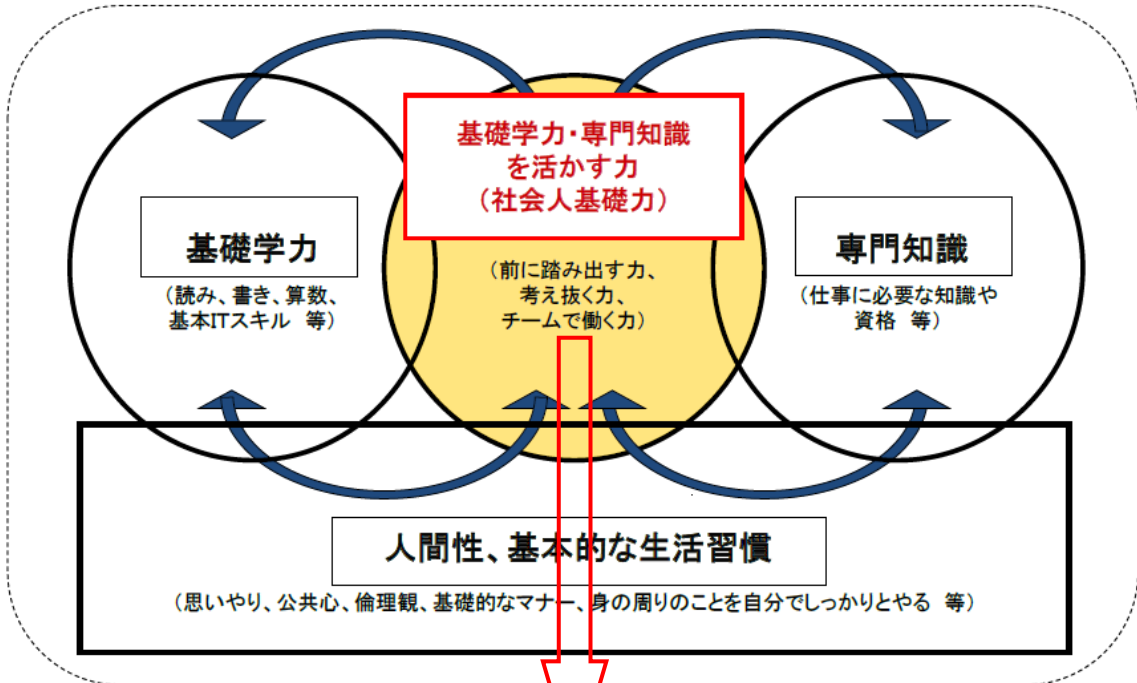
鹿北小中学校 徳・知・体の実態調査

調査結果分析→小中共通課題の確認


社会的自立とは？

- 自らを磨き高めながら、さらに、社会に貢献（役に立つこと）しながら生きていくこと。
- 主体性（自分で決めて責任をもつ）をもって社会と関わりつつも、必要に応じて誰かに頼りながら物事を行うことができること。（誰にも頼らず一人で物事を行うのは、自立ではなく孤立）

社会的自立のためには、どのような力をつければよいのか？




前に踏み出す力 (アクション)
 ~一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力~




- 主体性**
物事に進んで取り組む力
- 働きかけ力**
他人に働きかけ巻き込む力
- 実行力**
目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力 (シンキング)
 ~疑問を持ち、考え抜く力~



- 課題発見力**
現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- 計画力**
課題解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
- 創造力**
新しい価値を生み出す力

チームで働く力 (チームワーク)
 ~多様な人々とともに、目標に向けて協力する力~



- 発信力**
自分の意見をわかりやすく伝える力
- 傾聴力**
相手の意見を丁寧に聴く力
- 柔軟性**
意見の違いや立場の違いを理解する力
- 状況把握力**
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- 規律性**
社会のルールや人との約束を守る力

様々な教育活動は、鹿北のこども一人ひとりに、

「自立して生きていくための力をつける」ことが目的